

## 第 16 回山陽小野田市都市計画審議会議事録（要約版）

○開催日時	平成30年12月25日(火)14時～16時
○開催場所	山陽小野田市役所本庁舎3階大会議室
○出席者	1号委員 森田廣、小林剛士、田中剛男、村上俊治、村上景二 2号委員 水津治、中岡英二、長谷川知司、藤岡修美、宮本政志 3号委員 保田英雄、大田正登、塩田賢二
○欠席者	1号委員 藤田敏彦 3号委員 石部智子
○傍聴者	一般傍聴者 0名 報道関係者 1名
○事務局	古川副市長 森建設部長 都市計画課 河田課長、高橋技監、大和係長、佐久間主任技師
○会議次第	1 開会 2 副市長あいさつ 3 議事 ・議案第1号 山陽小野田都市計画公園の変更について(諮問) 4 その他 5 閉会
○会議内容	
1 開会	
2 副市長あいさつ	
3 議事	○議案第1号 山陽小野田都市計画公園の変更について(山陽小野田市決定) 事務局から一括説明 ・質疑応答(要旨) (委員) 整備後の公園の管理についてはどうなっているのか。 (事務局) 想定としては、都市計画公園なので、基本的には地元自治会と協定を結ばせていただき維持管理をしていただく予定としている。 (委員) 説明会では参加者なしとのことであるが、区域内にある新旧両方の土地所有者への説明はされているか。また、土地の取得状況はどのような進捗か。 (事務局) 関係地権者へは、約10回の協議会、地元説明会を開催しており、その都度、土地所有者、実際にお住まいの方々へ案内の文書を送付している。ただし、全ての方が出席とはなっていないが、そのような形で理解、納得はいただいていると考えている。 用地の取得状況としては、平成29年度に日の出公園用地については、全て買収を完了している。

- (委員) 説明の中で住民合意のもとであったが、住民合意とはどの程度の内容か。
- (事務局) 説明会を通じて関係者の皆様には合意をいただいて、小野田駅前都市再生整備計画策定に至ったと理解している。
- (委員) その合意は、面積の変更についても合意を得ていると理解してよいか。
- (事務局) 面積、形、配置について案として、説明会で示しているの、それら全てについて合意をいただいていると理解している。
- (委員) 公園内の遊具等の施設については、地元とよく協議をしてワークショップなどを通じて進めていくのが良い。今後の方向性があればお聞きしたい。
- (事務局) 公園施設というのは行政が一方的に決めるものでないと理解しているので、主に公園を利用されると思われる子育て世代の皆様を対象に説明会を開催した。その中で出た意見を取り入れたものを基本とし、来年度以降、工事着手前にもう一度地元説明会を開催し、意見を伺いたいと考えている。
- (委員) 健康遊具の設置など、高齢者への配慮もできたらよいと思う。また、駅近くの住宅密集地に位置しているので、災害時の一時避難地として非常に有効であり、そこも加味して検討していただきたい。
- (事務局) 施設の具体的な内容については、今の貴重な意見についても考慮しながら、検討を進めていきたい。
- (委員) 事業の予定について、お聞きしたい。
- (事務局) 小野田駅前地区都市再生整備計画事業は、平成28年度から平成32年度までの5年計画となっている。日の出公園についても32年度までの完成としている。

・採決の結果、全会一致で議案第1号は原案どおり承認された。

#### 4 その他

○報告事項「山陽小野田市都市計画マスタープランの改定について」

事務局から説明

・質疑応答（要旨）

- (委員) 目指す都市構造の考え方について、定住を促すことは人口減少を抑制するためには非常に有効で評価できる。拠点同士のネットワークを強め、拠点を中心として求心力を強めるとは交通網のことだと思う。現在山陽小野田市ではデマンド型交通等で公共交通に力を入れていると思うが、JRと何か進めていく予定、構想、または、今後JRと協議していく予定があればお聞きしたい。
- (事務局) 公共交通に関しては、地域公共交通網形成計画の中で方向性を示しており、担当部署が交通事業者と具体的な案件に関して、随時協議をしていると聞いている。その中でJRとのことも今後進めていくと思う。
- (委員) 将来人口フレームについて、社人研の数値が第二次総合計画と異なっているが、どちらが正しいのか。
- 景観の保全・創出を実現化するための規制・誘導の導入の方針について、

景観計画の策定により適切な規制としているが、太陽光発電施設の建設を法的に規制することは可能なのか。

(事務局) 総合計画策定後に社人研より27年の国勢調査をもとに推計が公表されたので、都市計画マスタープランではそれを採用し、第二次総合計画策定時点では公表されておらず、独自推計としているため、数値が異なっている。

(委員) それでは、注釈の説明文がまったく同じではおかしい。注釈の説明文を修正したほうがよい。

(事務局) 確認し、必要に応じて修正する。

太陽光発電施設の景観からの規制について、景観行政団体に移行したが、景観計画の策定の具体的な検討には至っていない。今後、他自治体の規制手法等を参考にし、景観計画の策定を検討していきたい。

(委員) 将来人口フレームについて、目標人口を第二次総合計画と同じ58,000人としているが、これは山口東京理科大学が公立化し、また薬学部ができたことも人口減少を抑制する要因としていると思う。都市マス内で理科大との連携を記載しているか。

(事務局) 地域別構想で、あくまで都市計画マスタープランの方針として、大学との連携について記載する予定で検討している。

(委員) 太陽光発電施設の建設は、土砂崩れなどの防災上の問題もあるのではないか。

交通に関して、サンパークの集客力を活かして、他市からの集客を考えることが必要。サンパーク駅、バスターミナルなどを整備して、人をどんどん他市から集めるようにしたほうがよい。

(事務局) 太陽光の設置等に伴う造成行為については、規模や区域などによっては関係法令で手続きが必要になり、大規模な山林の伐採を伴う造成や、農地の埋め立て等については防災面でも確認ができています。

サンパーク駅のような将来を見越した公共交通の整備のように、都市計画マスタープランの方針を実現させていくための具体的な事業は必要であり、委員から提案のあったような内容も検討していく必要がある。

(委員) 将来人口フレームについて、社人研から正式に公表された数値に変更するのなら、目標人口も変更すべき。基本となる数値が変わったのなら目標人口も変わるのがしかるべき。

高校生アンケート、ワークショップで得た結果を取りまとめ、どのように計画策定に活かしているのか。

(事務局) 目標人口については、総合計画と同じ人数で設定し、社人研の数値のみを変更している。

高校生アンケート、ワークショップの結果については、地域別構想の中で反映させている。

(委員) ワークショップで得られた地域の気持ちを反映した計画にしてほしい。

- (事務局) よく精査し、地域別構想に盛り込んでいきたい。
- (委員) 管理ができていない森林は災害について今後大きな問題になる。また、豊かな自然を守るには害獣への対応も大切な問題となる。
- 休耕田が増えており、そこに雑草が繁茂し、害獣の問題が発生する。良いまちをつくる上で、農地の管理は非常に重要なものである。
- かわいそうな光景を見かけるが、街路樹、中央分離帯の植樹の管理も大切である。
- これから高齢化、人口減少が進む中で、コンパクトシティに向けての集住が重要。人口誘導について強く考えてほしい。
- 太陽光発電施設での土地利用について、法的な規制は難しいと思うが、事前の届出などがあればお勧めのような形でも誘導できれば良い。
- (事務局) 山林、農地については農林水産課と個別に協議し、庁内調整会議の中でも意見を伺っている。
- 街路樹、中央分離帯については、都市計画マスタープランの中でも今後の維持管理に努めるとして、示していく予定である。
- 居住の誘導については、用途地域の見直しや本市ではまだ検討段階ではあるが、居住を誘導するような都市計画部門の計画もあるので、そういったところも視野に入れて作業を進める。
- (委員) 主要県道について、改定案の中で4車線化に向けて進捗していると書かれているが、せっかく宇部土木建築事務所長がいらっしゃるので、さしつかえない範囲で現在の進捗についてお聞きしたい。
- (委員) 小野田山陽線については、JRと協定を結び事業進捗中である。
- 新開作二軒屋線の用地買収については、今年度の予算分の買収は契約できる見通しと聞いている。
- (委員) 全体を見ての感想であるが、今回の改定はドラスティックな改定ではなく、現状を認めて、それをよりはっきりさせていくという理解でよいか。
- (事務局) 現状を密にしていくことも含めて将来を見据えた計画とする予定である。

5 閉会